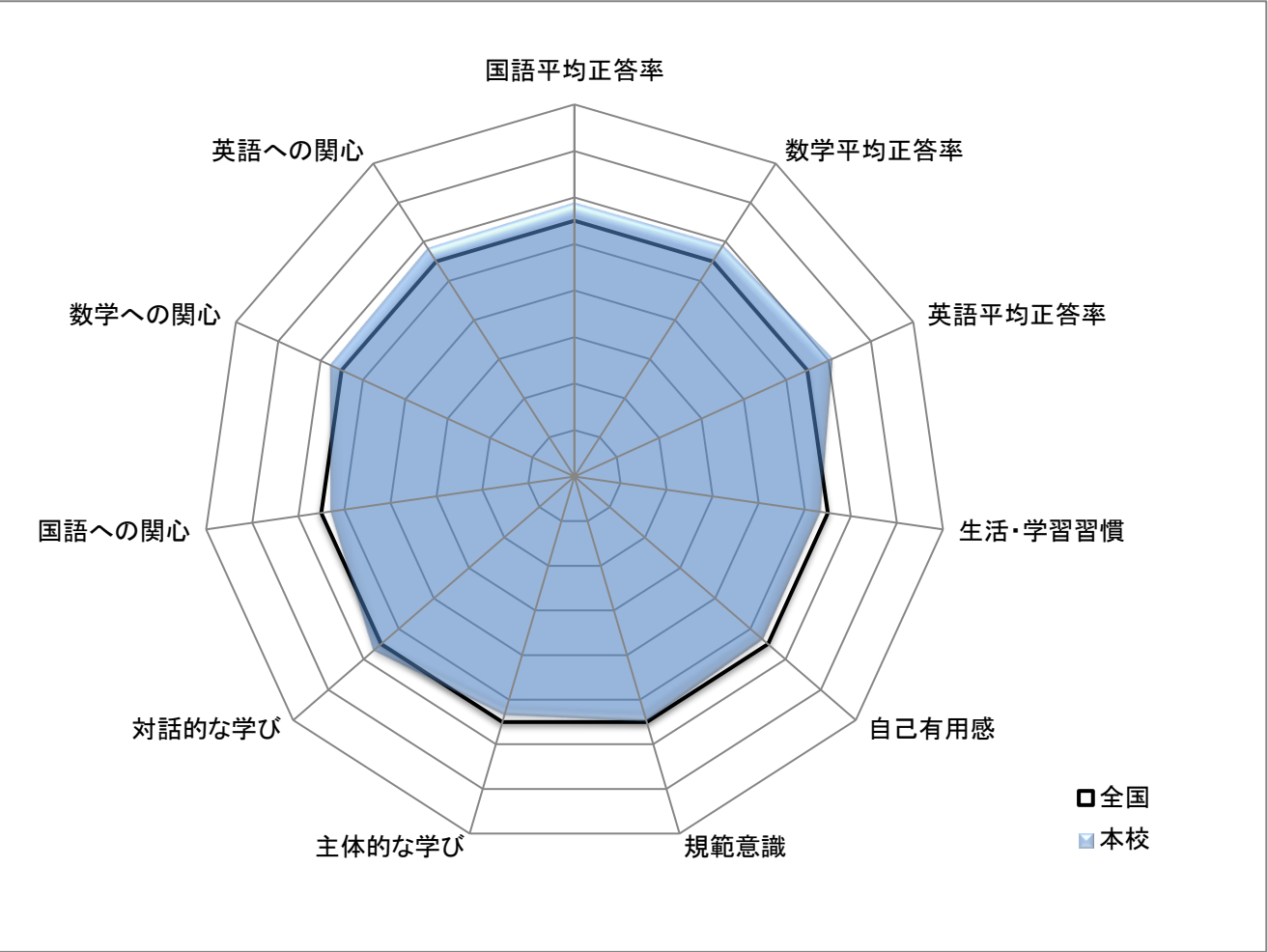


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

- ・前年度と同様に実施教科での正答率は全国の平均を上回り、都の平均を国語・数学で上回っている。数学において「データの活用」で課題があるように課題解決能力を重点的に育成する必要がある。
- ・学習習慣において、計画的に家庭学習を取り組めない生徒がいる。
- ・規範意識においては日常的な生徒指導から人権感覚が高く、社会貢献に対する意識が高い。
- ・自己有用感が高い生徒が多くいるが、自らの生き方を考えさせ、さらに将来の夢・目標を明確にもたせるキャリア教育に力を入れなければならない。
- ・授業中の対話的な学びの他に、学級での話し合いによる課題解決・合意形成を図る活動が意識して行う必要がある。

《授業改善のポイント》

- ・わかる授業をさらに実施するために、本時の目標を明確に伝え、ICT機器を効果的に活用し、理解を深める工夫を行う。
- ・計画的に家庭学習を行う習慣をつけるために学習計画表等での確認の他に、各教科で家庭学習の方法等を生徒にわかりやすく伝える。
- ・教科等の特質に応じ、どのような考え方で思考するか（見方・考え方）を授業の中で高め、学習する意義を実感させる。
- ・話し合い活動等を通して、自らの考えを広げ深め、課題を解決する学習を行っていく。
- ・単元終了後に振り返りを必ず行い、生徒自身に活動の状況を把握させ、自己評価を行い、自己成長力を育成する。

《チャートの特徴》

- ・実施教科での正答率は全国の平均を上回り、都の平均を国語・数学で上回った。国語は全項目で都の平均を上回ったが、国語の関心度は全国平均よりも低い数値を示している。数学においては「データの活用」が全国平均よりも下回っている。英語においては都の平均にくらべ「聞くこと」が課題があることがわかった。
- ・学習習慣において、計画的な家庭学習をしている生徒が50%を下回った。規範意識においては人権感覚が高く、社会貢献に対する意識が高い生徒が90%いる。
- ・自分に良いところがあると約80%が答えているが、将来の夢・目標をもつ生徒が約63%にとどまっている。
- ・授業中の対話的な学びによって考えを深める活動等は高い数値を示しているが学級活動での話し合いによる課題解決・合意形成を図る活動が約68%となっており、全国平均より10ポイント下回った。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・日々の教育活動、学力調査結果等の情報をホームページ等で積極的に保護者・地域に開示し、連携・協力を強化していく。
- ・保護者に対して三者面談等を通して、生徒の現状を伝え、連携の方法を具体的に確認する。